

ベトナム人労働者への調査結果からみる日本の技能実習制度への考察

ー “STEP HARIMA in HANOI” プロジェクトによる外国人労働者の受け入れについてー

A Study of Technical Internship Programme in Japan

Based on a Survey of Vietnamese Workers:

Acceptance of Foreign Workers through the “STEP HARIMA in HANOI” Project

前川裕史 中嶋龍祐 (兵庫県立国際高等学校 主幹教諭、2年次生)

Hiroshi Maekawa, Ryusuke Nakajima

(Hyogo Prefectural International High School senior teacher, grade two student)

キーワード：技能実習制度 “STEP HARIMA in HANOI” プロジェクト ベトナム人

1. 報告の目的

本報告では、日本で働くベトナム人技能実習生に対してインタビューを行い、その結果を分析し彼らが直面している問題について取り上げた先行研究（ゲン・ティ・ホアン・サー、2013）と、兵庫県立国際高等学校が兵庫県姫路市を中心とする中小企業で実施したベトナム人労働者への聞き取り調査を比較検討し、姫路経営者協会が実施している“STEP HARIMA in HANOI”プロジェクトにみられるベトナム人技能実習生受け入れ制度の事例を紹介することを目的とする。

2. 先行研究の検証と問題の所在

日本における技能実習制度による外国人労働者の受け入れについては、多くの研究者がその問題点を指摘している。その中で、日本で働くベトナム人技能実習生の受け入れに関してインタビューした結果、「ベトナムにいた時の自分の専門と違い、研修内容が自分の将来に役立つとは思えない」、「研修生というより、単純労働者でしかない」、「実質の研修技能が殆どない」のような不満を抱えている事例を報告している（ゲン・ティ・ホアン・サー、2013）。現在の技能実習制度では実習生の日本での働き先はベトナムの送り出し機関や日本の受け入れ機関が決めている。したがって、ベトナム人技能実習生に日本で働く場所や職種などを選択する権利がない。問題はベトナム人技能実習生の日本への受け入れに関する主導権が送り出し機関などの第三者によって握られていることであると述べている（ゲン・ティ・ホアン・サー、2013）。しかし、このような事態はベトナム人技能実習生を雇用している日本のすべての企業で起こっているのだろうか。ベトナム人技能実習生が日本で働く職種や企業を自ら決めて働いている事例があるのかを調べる必要がある。そこで多くのベトナム人が雇用されている姫路市の企業で聞き取り調査を行った。具体的には、ベトナム人労働者に、日本で働きたいと思った理由、日本で働いて良かったと思う点などの質問をした。

3. 背景：姫路市経営者協力における“STEP HARIMA in HANOI”プロジェクトを通じたベトナム人の受け入れ

(1) ベトナム人受け入れの経緯

1975（昭和50）年からベトナム戦争終結に出てきたインドシナ難民、いわゆる「ボート・ピープル」を日本は受け入れ始めた。1975（昭和50）年には126人、1976（昭和51）年には247人だったが、1952（昭和52）年には833人に急増し、1979（昭和54）年から1982（昭和57）年には毎年1,000人台を記録した（外務省、2016）。受け入れ当初はボート・ピープルに対し一時的な滞在を認めるとしてしたが、1978（昭和53）年4月に難民の定住を認める決定をした。さらに1979（昭和54）年10月に政府が定住を支援することを決定し、それに伴い難民事業部が発足し、12月にこの本部の下に姫路定住促進センターが設置された。この姫路定住促進センターは1996年に閉所されている。

ちなみに、兵庫県立国際高等学校が実施した聞き取り調査によると、蔦機械金属株式会社の管理部総務グループマネージャーのYはベトナム人技能実習生受け入れの経緯について、「当社では1979年よりベトナム難民を受け入れてきた。それ以降、継続的にベトナム人を受け入れている」と述べており、雇用の背景には歴史的要因があると考えられる。

(2) 姫路市における外国人住民

前述のように、姫路定住促進センターの設置等の歴史的背景があるため、2016（平成28）年12月現在、姫路市内の外国人人数10,419人のうち、約24%にあたる2,510人がベトナム人である。この人数は兵庫県内で神戸市について2番目に多く、この2つの市のみ1,000人を超えている。そのほかに、姫路市では、韓国人が4,533人、中国人1,429人、フィリピン人447人、ブラジル人128人、アメリカ人93人、台湾人55人、ネパール人49人、その他1,175となっている。ここから、姫路市の外国人にはアジア圏の人が多く、その中でもベトナム人が占める割合が特に大きいことがわかる（法務省、2016）。

(3) “STEP HARIMA in HANOI” プロジェクトの経緯

姫路市を中心とした播磨工業地帯の中小企業は、現在、少子高齢化が進み、深刻な人材不足に悩んでいる。そこで姫路経営者協会が中心となり、ベトナムのハノイで企業説明会を行い、高度人材獲得を目的にベトナム人を直接雇用するプロジェクトを立ち上げた。これが“STEP HARIMA in HANOI”プロジェクトである。2014（平成26）年に発足し、2015（平成27）年2月12日に第1回合同企業説明会が行われ、姫路市内を中心とした播磨工業地帯にある10企業と約60名のベトナム人エンジニアが参加した（姫路経営者協会、2015）。第2回は2015（平成27）年11月5日、第3回は2016（平成28）年11月3日に実施された。

4. 調査の方法および調査結果の概要

兵庫県立国際高等学校の在校生がベトナム人の雇用されている企業で聞き取り調査を実施した。目的は“STEP HARIMA in HANOI”プロジェクトを通して、ベトナム人労働者を雇用している姫路市とその周辺の企業を訪問し、外国人労働者の現状を調査し、外国人労働者の受け入れについて考察するためである。調査は2回実施し、第1回は2016（平成28）年3月25日にサワダ精密株式会社、葛機械金属株式会社の2社、第2回は2016（平成28）年8月26日に株式会社梶原鉄工所、高田工業協業組合の2社、計4社を訪問しベトナム人労働者9人に日本語で聞き、日本語または英語で回答を貰う形式の聞き取り調査を実施した。調査対象者の年齢は24歳～31歳で平均27歳である。彼らに「日本で働いてよかったと思うか」と聞いたところ、9人中5人が「よかった」と肯定的な回答が得られた。具体的には、高田工業協業組合のTは「ベトナムではできないような機械や図面展開などが勉強できたことがよかった」と答えた。また、「仕事の面でスキルアップしたか」という質問に9人中3人が肯定的な回答をした。具体的にサワダ精密株式会社のMは「3年前に機械の仕事についたがどんどん技術が向上し、工業国を目指すベトナムで自分の技術を活かすためにここでもっと学びたい」と答えた。同じくサワダ精密株式会社のTは「いつも頭で考えなければならぬため設計は難しいが、将来自分にとって必要なスキルだ」と答えていた。これとは別に、Tは「日本に来て自分のしたいことはできているか」という質問に対し、「小さいころから設計が好きで、大学を出てこの会社のエンジニア事業部で働いている」と自分が希望した仕事で日本できていると回答した。

5. 日本の技能実習制度への考察

以上のように、“STEP HARIMA in HANOI”プロジェクトで雇用されているベトナム人は、日本で働くことを肯定的に捉え、日本でスキルアップができていると感じている人が多いことが分かった。その上、自分が希望した仕事ができていると回答した人もいた。このことは日本で働くことに不満を感じているとする先行研究の調査結果（グエン・ティ・ホアン・サー、2013）とは対称的である。原因は“STEP HARIMA in HANOI”プロジェクトでは日本の企業が現地で企業説明し、就職希望者に対して面接し雇用する、直接雇用のしきみをとっていることがベトナム人労働者の働くことに対する満足度を向上させていると推測される。

[参考文献]

外務省、2016、「国内における難民の受け入れ」

グエン・ティ・ホアン・サー、2013、「日本の外国人研修制度・技能実習制度とベトナム人研修生」

姫路経営者協会、2015/5/1、「姫路経営者協会会報 Bridge 平成27年5・6月号」

法務省、2016、「在日外国人統計2016」